



事前申込制  
30名  
無料

## 性被害当事者との対話

# 「箱」を飛び出せ

2021.3.6 Sat 13:00~16:00

性被害体験のある女性たちの「本音」を聞こう！

家族や支援者、関心のある人たち、みんなで一緒に考えよう、話し合おう。

「支援を受ける」こと、「相談すること」には、受けたい気持ちと受けたくない気持ちがあるのではないのでしょうか？私たちの多くが実際には性被害を体験していると言っても過言ではないでしょう。しかし、その体験を人には話さず、「普通に」暮らしていたり、「支援」をしていることもあるかもしれません。自身を「被害者」と名乗ることで、得るものと失うものがあるのかもしれませんが。今回は、被害者としてのラベルを貼られる「支援の場」から飛び出し、自分自身の生き方を模索する体験について、みなで考えたいと思います。一緒に「被害者支援」の新しい景色を探しませんか？



定員：事前申込制（2021.2.1より受付開始）

申込方法：左のQRコードもしくはこくち一ずサイト

(<https://www.kokuchpro.com/event/tobidase/>)

よりお名前・ふりがな・ご所属を記入の上お申し込みください。

問合せ：mofumofunetsogo@gmail.com（もふもふネット事務局）

※コロナウイルス感染拡大状況により中止のおそれがあります。中止の場合、3日前までに判断し、皆様に登録メールアドレスに連絡するとともに、もふもふネットホームページ(<https://mofumofunetjindo.com/>)にて告知いたします。携帯キャリア等でのアドレス登録の場合、メッセージが届かない場合がありますのでご注意ください。



### 豊中市立生活情報センターくらしかん ホール

くらしかん アクセス

<https://www.city.toyonaka.osaka.jp/shisetsu/sonota/kurashikan/syozaiti.html>

阪急宝塚線豊中駅（徒歩12分）

千里中央からは、阪急バスで豊中経由で「北桜塚」下車。

くらしかんの貸室条件に基づき、定期的な換気、相互接触回避、マスク着用、消毒等を行います。コロナウイルス感染予防には留意しますが、基礎疾患をお持ちの方などで不安のある方は参加をご遠慮ください。また当日発熱している方は入場をお断りいたします。あらかじめご了承ください。





## 1 話題・問題提起 (15分)

話題提供者：井上瞳（大阪大学大学院・日本学術振興会特別研究員）

「箱」とは、「治療・サポート場面」を意味します。心理治療・サポートは、被害者の「心の傷」に焦点を当てます。ここでの支援者と被害者の関係は、調度品と修理師にたとえることができます。被害者がヒビ（＝心の傷）の入った調度品、支援者は細心の注意を払い修理する修理師。手袋をつけた修理師の目は、調度品のヒビに向けられています。ヒビがこれ以上広がらないように丁寧に箱に入れ、万が一ヒビが広がったり欠けたりした場合には手持ちの道具ですかさず修理する。

被害者にとって、ヒビを見せることはケアを受けることのできる条件です。ですが、ヒビだけに集中していると全体が見えなくなってしまうことはないでしょうか。今回は、すこし怖いかもしれませんが、被害者も支援者も箱から飛び出してみようという企画です。箱の中で話づらいこともここではOK。普段の「修復する」視点だけでなく、たとえば、「実は私こんな調度品やねん」とか、「ヒビ以外にこんな形の模様もついてるで」というようなこと、あるいは、「ヒビってそもそも何なんだろう?」「ヒビが私のすべてじゃない!」というようなこともOK。

普段疑問に思っていることや前から話してみたかったけど迷っていたことなど、被害者だけでなく、支援者や参加者のみんなの対話の場所をつくりましょう

## 2 「箱を飛び出した」「飛び出そうとしている」被害当事者3名

各10分間程度、テーマについて、自身の体験と思う事、感じることを話してもらう。

## 3 分かち合い

聞いていた参加者は、3人1組の小グループになり、今聞いた当事者たちの話について、意見・感想等を分かち合う（15分程度）

## 4 各小グループから話し合った内容を発表

## 5 それを踏まえて、当事者たちのサークル

## 6 全体の分かち合い

進行：藤岡淳子、野坂祐子、毛利真弓

主催：多様化する嗜癖・嗜虐行動からの回復を支援するネットワーク (ATA-net)

共催：一般社団法人「もふもふネット」

この事業は、社会技術開発研究センター (RISTEX)の助成を得ています。